

# 平成 2 1 年度病害虫発生予報第 6 号

平成 2 1 年 9 月 1 日  
愛 知 県

## 1 普通作物

イネのトビイロウンカは、8月中旬に予察灯で誘殺され、本田でも8月上旬に確認しました。本種は、ほ場内で局部的に生息することが多いので、発生状況に注意してください。

斑点米の原因となるアカスジカスミカメ、イネカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシなどの斑点米カメムシ類を、本田および畦畔で確認しています。一部のほ場では多数の寄生を確認しているため、穂揃期に防除しましょう。

ダイズにおけるハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は、地域差がありますが、平年並の状況です。ただし、一部地域で発生が多い状況にあります。残暑が厳しく降雨の少ない年には多発する傾向があるので注意してください。

## 2 果樹

ウンシュウミカンでは、黒点病の発生量がやや多くなっています。感染源を減らすため、枯れ枝は適切に処分しましょう。アメダス気象データを利用したチャノキロアザミウマ第7世代成虫の発生ピークは、東海9/11、名古屋9/12、蒲郡9/19、岡崎9/20、豊田・豊橋9/22、南知多・伊良湖9/24と予測されています。多発生ほ場では防除しましょう。

モモせん孔細菌病の発生が多いほ場では、越冬病原菌量を減らすため、秋期防除に努めましょう。

ナシうどんこ病は、一部地域で発生が多いほ場があります。早期落葉を防ぐため、また、来年の伝染源を減らすため、防除しましょう。

カキうどんこ病は、秋に病勢が回復することがあります。早期落葉を防ぐため、防除しましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数は少ない状況ですが、予察灯における誘殺数は多くなってきています。ヒノキ球果の口針鞘数に基づくヒノキからの離脱時期の予測は9月上旬となっています。果樹園への飛来が予測されますので、注意してください。詳細は8月17日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参照してください。

## 3 野菜

アブラナ科野菜における害虫の発生は、平年並からやや少なめの状況ですが、8月中旬以降、晴れの日が多く、降雨が少なかったため、ここ数日発生が目立つようになってきました。今後、ハイマダラノメイガやハスモンヨトウ等の発生量が増えてくると見込まれます。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなりますので、育苗ほでの防虫ネットの設置、育苗期後半～定植時の薬剤処理など、十分な対策をしましょう。

コナジラミ類の発生量は平年並ですが、今後の増加が心配されます。トマトの定植時には粒剤を使用し、防虫ネット(目合0.4mm以下)を設置するなどして、本ほへの侵入を防ぎましょう。また、トマト黄化葉巻病発病株を見つけたら、被害の拡大を防ぐため、抜き取り、適切に処分しましょう。

## 4 花き

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数が多くなっています。成虫の発生ピークは9月上旬ですので、早期防除に努めましょう。

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病（穂いもち）	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並	± ±
	トビイロウンカ	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	コブノメイガ	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	フタオビコヤガ	やや多い	全域	8月下旬の発生量はやや多い	+
	斑点米カメムシ類	やや多い	全域	8月下旬の発生量はやや多い	+
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± +

### ・防除対策

〔イネ・フタオビコヤガ〕

ダントツ粉剤DL、スタークル粉剤DL、アルバリン粉剤DLなどで防除しましょう。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

8月3日発表の「病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや多い	全域	8月の枯れ枝上の孢子形成量はやや多い 8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量は平年並	+ + ±
	ミカンハダニ	やや少ない	全域	8月下旬の発生量は少ない 9月の降水量は平年並	- ±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並 黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並	± ±
	モモハモグリガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は少ない 8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	- ± +
ブドウ	べと病	やや多い	全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量は平年並	+ ±
カキ	炭疽病	やや少ない	全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は平年並	- ±
	うどんこ病	平年並	全域	8月下旬の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
果樹共通	カメムシ類	平年並	全域	予察灯における誘殺数は平年並	±
				8月上旬のヒノキ球果寄生虫数は平年並	±

・防除対策

〔カンキツ黒点病〕

感染源を減らすため、枯れ枝は取り除き、ほ場から持ち出し適切に処分しましょう。前回散布後の累積降雨量250mmを目安として、ジマンダイセンDFやデランフロアブルなどで防除しましょう。

〔ブドウべと病〕

ICボルドー48Qを丁寧に散布しましょう。また収穫後は落葉の処理を徹底し、来年の発生源になる病原菌を減らしましょう。

## 野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	黒腐病	平年並	全域	昨年の発生量は平年並 8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並	± ± ±
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 9月の気温は高い	- +
	ハイマダラノメイガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 9月の気温は高い	- +
ネギ	さび病	平年並	全域	8月の気温は平年並 9月の気温は高い	± -
ハウレンソウ ナス(施設)	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	全域	8月下旬の露地ナスでの発生量はやや多い 9月の気温は高い	+ +
トマト(施設)	コナジラミ類	やや多い	全域	黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない 9月の気温は高い	- +

・防除対策

〔ハウレンソウ、ナス(施設)・ミナミキイロアザミウマ〕

ハウレンソウではパダンSG水溶剤、アグロスリン乳剤など、ナスではダントツ水溶剤、コテツフロアブルなどで防除しましょう。

〔トマト(施設)・コナジラミ類〕

本日発表の「トマト黄化葉巻病情報第1号」を参照してください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	アブラムシ類	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 黄色粘着トラップにおける誘 殺数は平年並 9月の気温は高い	± ± +
	ハダニ類	平年並	全域	8月下旬の発生量はやや少な い 9月の気温は高い	- +
	アザミウマ類	やや多い	全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± +
	ハスモンヨトウ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	+ +

### ・防除対策

- 〔キク(露地)・アブラムシ類〕  
アドマイヤーフロアブル、モスピラン水溶剤、チェス顆粒水和剤などで防除しましょう。
- 〔キク(露地)・アザミウマ類〕  
ダントツ水溶剤、ハチハチ乳剤などで防除しましょう。
- 〔キク(露地)・ハスモンヨトウ〕  
本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。
- 〔キク(露地)・オオタバコガ〕  
本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

### 参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方気象台8月29日発表)

予想される向こう1か月の天候  
東海地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。  
向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%です。  
週別の気温は、1週目は平年並の確率50%、2週目は平年並または高い確率ともに40%、3~4週目は高い確率40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率  
〔気温〕 低い : 20% 平年並 : 40% 高い : 40%  
〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%  
〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

予想される天候の特徴  
当地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わる見込みです。(8月29日~9月25日の晴れ日数の平年値は約15日)。

### 「農薬使用者のみなさんへ」

農薬散布を行う場合、農薬が飛散し、人畜、周辺農作物等に危害を及ぼすことがないように配慮しましょう。  
農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。